

令和3年度決算に基づく「財政指標」を公表します

■健全化判断比率

項目	白石市	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	赤字なし	13.32%	20.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	18.32%	30.0%
実質公債費比率	3.0%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—	350.0%	

健全財政に努めるワーン!



健全化判断比率指標はすべて「基準内」
 地方自治体は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」（平成19年6月公布）の規定により、財政指標の公表が義務づけられています。
 この法律では、地方公共団体の財政健全度を表す指標において「早期健全化基準」または「財政再生基準」を越えると、財政健全化計画を策定することが義務づけられています。
 本市のすべての指標は、健全化判断比率の基準内であるものの、厳しい財政状況が続いているため、引き続き健全な財政運営に努めていく必要があります。

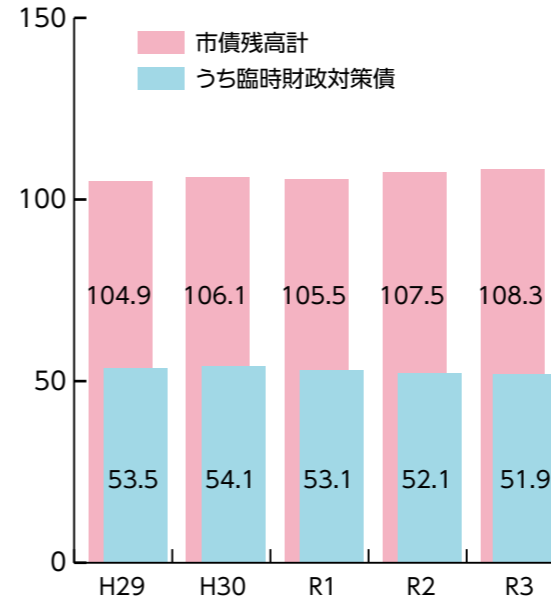
■資金不足比率(公営企業)

公営企業名	資金不足比率	経営健全化基準
水道	資金不足なし	20.0%
下水道	資金不足なし	20.0%

決算用語メモ

形式収支	歳入決算額から歳出決算額を差し引いた額
実質収支	形式収支から翌年度に繰り越すべき財源を除いた額
実質赤字比率	一般会計等の赤字の程度を表す指標で、財政運営の悪化の度合いを示すもの
連結実質赤字比率	すべての会計の赤字と黒字を合算して、全体としての赤字の程度を表す指標で、財政運営の悪化の度合いを示すもの
実質公債費比率	市債(借金)の返済額およびこれに準じる額の大きさを表す指標で、資金繰りの程度を示すもの
将来負担比率	市債(借金)や将来支払っていく可能性のある負担金等の現時点での残高を表す指標で、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すもの

市債(借金)残高の推移



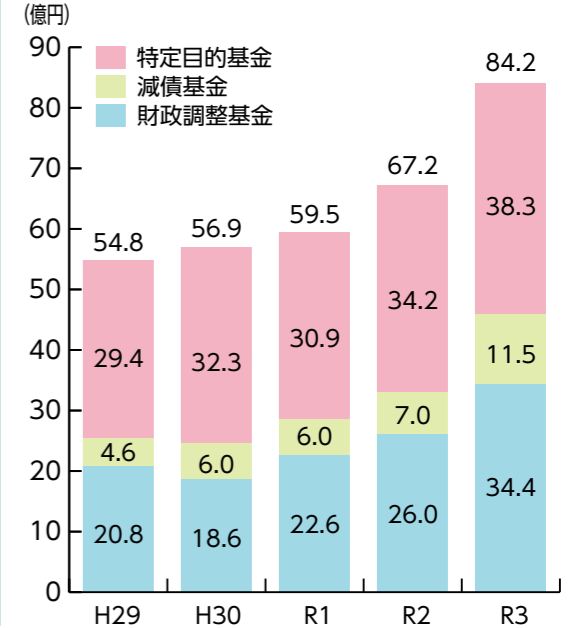
市債(借金)の残高は、約8千万円の増加
 令和3年度末の一般会計市債(借金)の残高は、108億3,215万円となり、前年度末と比較すると7,994万円(0.7%)増加しました。
 令和3年度は、中河原白石沖線街路事業やホワイトキューブZEB化推進改修事業などの普通建設事業、台風や地震に関する災害復旧事業の財源として市債を借り入れたものや臨時財政対策債の借り入れにより、借り入れ総額は11億7,879万円となりました。
 一方、これまで借り入れていた市債の返済金(償還元金)が、10億9,885万円であったため、市債残高は増加しました。
 市債借入れの増加は、後の公債費(借金返済)増加につながることから、市債残高の抑制に努めるとともに、地方交付税措置がある地方債を有効に活用していきます。

■市債の状況

区分	令和2年度末残高	令和3年度借入	令和3年度元金返済	令和3年度末残高
一般会計	107億5,221万円	11億7,879万円	10億9,885万円	108億3,215万円
うち、臨時財政対策債	52億 950万円	5億3,809万円	5億5,371万円	51億9,388万円

持続可能な財政運営のため基金を積み立て
 令和3年度末の一般会計の積立基金(貯金)の残高は、84億1,479万円となり、前年度末と比較すると16億9,342万円(25.2%)の増加となりました。
 令和3年度は、地方交付税やふるさと納税寄附金が大きく増加したことにより、財政調整基金に8億4,050万円、減債基金に4億4,754万円、都市整備基金に3億32万円の積み立てを行うことができました。
 厳しい財政状況の中で、令和3年度決算では積立基金(貯金)の残高が増加しましたが、災害や新型コロナウイルス対策などの緊急的な事業に対応できるように、また、将来に向け持続可能な財政運営を進めるため、行財政改革に取り組み、財政の健全化を一層進め、施策の「選択と集中」を着実に実施し、財政調整基金をはじめとした基金残高の確保に努めます。

一般会計の積立基金残高の推移



■基金の状況

区分	令和2年度末残高	令和3年度積立	令和3年度取崩	令和3年度末残高
財政調整基金	25億9,926万円	8億4,050万円	421万円	34億3,555万円
減債基金	7億 37万円	4億4,754万円	0円	11億4,791万円
その他特定目的基金	34億2,174万円	4億4,472万円	3,513万円	38億3,133万円
合計	67億2,137万円	17億3,276万円	3,934万円	84億1,479万円